経済産業大臣賞

人材育成支援部門

受賞者　株式会社久留米リサーチ・パーク

受賞件名

産・学・官・協の連携による久留米地区のゴム産業人材育成

受賞理由

福岡県久留米地区で産・学・官・協の連携による、ゴム産業人材育成プログラムをつくり、28年間支援。延べ909名を育成し、ゴム産業に大きく貢献。座学中心の講座に加え、実践技術講座も設け、5名程度の受講生に対してほぼ同数の講師陣がマンツーマンで指導

会社概要

●商号
株式会社久留米リサーチ・パーク
●設立
1987年12月13日
●従業員数
30名
●事業内容
中小企業・ベンチャー企業・研究開発向け企業の技術支援及びテナントビルの運営

お問い合わせ先

株式会社久留米リサーチ・パーク
福岡県久留米市百年公園1-1
TEL:0942-37-6111（代表）
FAX:0942-37-6118
E-mail:mono@krp.ktarn.or.jp
http://www.krp.ktarn.or.jp/

久留米リサーチセンタービルの外観

地下足袋から自動車部品へと飛躍させた人材育成。「途中からではなく、基本から学ばせなければ」

株式会社久留米リサーチ・パーク
福岡県工業技術センター

この度、このような栄誉ある賞を賜り大変光栄に存じます。本事業の構築にこれまでご協力いただいた関係者の皆様に感謝しますとともに、今後も「ゴムの町久留米」ならではの講座づくりに努めていきたいと思います。

受賞Point

ゴム産業人材育成のために産・学・官・協の連携で、地域のゴム産業発展に貢献

ものづくり・ものがたり

「ゴムの町」が人材育成により新たなゴム産業の拠点へ

地下足袋から始まり自動車産業を支えるゴム部品へと…。福岡県久留米地区は「ゴムの町」として産業界に貢献してきた。そこで欠かせないのが「ゴム産業人材育成」事業である。

その人材育成事業を担ってきたのが同社で、1989年に「ゴム技術者向け人材育成講座」を創設以来、2006年には初級～中級向け人材育成講座、2010年には上級向けの人材育成講座を実施。

初級から、座学中心の講座に加え、実践技術講座も設けている。実践講座では、受講生自らが与えられた課題の解決策を考え、5名程度の受講生に対してほぼ同数の講師陣が指導するマンツーマンの実習を行う。

今後に向けて、さらなる講座としての魅力作りが要求される。

最初から工程を見ることでゴム作りの理解が深まる

「ゴムの加工というのは、コンパウンド（混ぜ物）ですから、やればやるほどわからなくなってしまいます。今では、コンパウンドの調整から実習を行うようにしていますが、実際には一番難しい〝練り〟のところをやってみないと…」という㈱久留米リサーチ・パークの藤道治さん。昨年九州大学の学生を受け入れたときに、やはりゴムの製造工程を最初から見せると理解がぐんと深まったという。

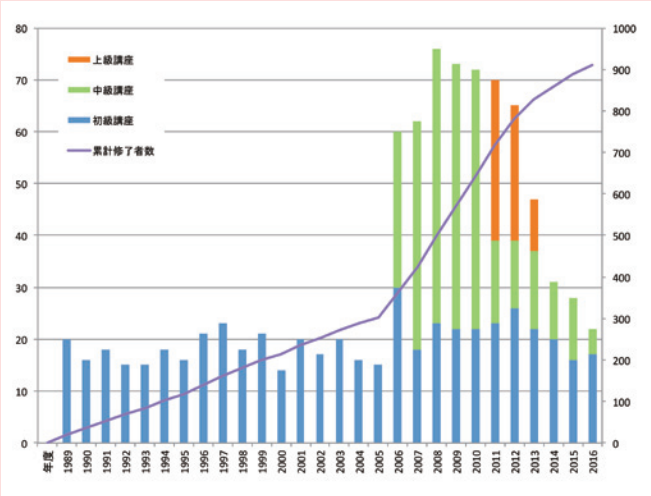
「途中からではダメです。人材育成においては、基本から教えなければ…。この歳になってようやくゴムの難しさがわかってきました」

ゴムの町久留米の源流は、明治時代初期に「足袋」製造を発展させた2人の人物。ひとりはムーンスターの創業者で足袋製造の機械化を目指した倉田雲平。3代目の倉田泰蔵により、ゴム底の地下足袋が製品化された。またブリヂストンの創業者石橋正二郎はゴム底の地下足袋からさらにタイヤ製造を始め、現在の「アサヒシューズ」「ブリヂストン」へと発展させた。

その原点を支えてきたのが「久留米ゴム」の伝統である。時代の変化の中で、講座の意味合いを伝え、人材育成を担っていくことは、地場産業の発展に向けてきわめて重要だ。

基礎コース：機器実習

実習コース：配合解析



ゴム技術者　人材育成実績（累積）
2016年度までの実施内容で、延べ909名の実績となっている。参加企業は、久留米地区の企業が多いが、基礎コースについては、県内の北九州、福岡、筑豊の各地区だけでなく、熊本県、長崎県や宮崎県の企業からの参加者もある。また中級コースは、国内で唯一実施されているため、関東の企業からも参加実績がある

ここがスゴイ！この技術

地域一体となる体制を構築

久留米工業高等専門学校や福岡県工業技術センター、地元企業、九州ゴム工業会、日本ゴム協会九州支部と連携することで、ゴム技術者の育成に地域一体となって取り組む体制を構築

▼

実践中心の中・上級講座

中・上級講座では、ゴムの配合や加工に起因する物性評価及びトラブル解析に関し、受講生自らが様々な装置による加工や測定から解析までを行う国内唯一の実習講座を設けている